

謹んで新春をお祝い申し上げます

旧年中は大月町観光協会にご指導を賜り誠にありがとうございました。

本年も会員様と来町者の満足度

向上に向けスタッフ一同気持ちを

新たに組み立ててまいりますので、

お気付きのことは何なりとご指導

いただければ幸いです。

令和八年 元旦

大月町観光協会会長

久米隆幸



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は大月町観光協会事務局に多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年も、町が持つ豊かな自然や文化、地域の魅力をより多くの方に知っていただけるよう、会員の皆様と力を合わせ、観光の更なる発展に取り組んでまいります。

引き続き、変わらぬご指導ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

大月町観光協会事務局 一同

宿泊費高騰落ちつき滞在時間拡大を期待

アンパンマンの原作者やなせたかしさんをモデルにしたNHKの朝の連続ドラマ「あんぱん」が昨年の流行語大賞にエントリーするほど人気を見せ完結。それを受けて来県者数も順調に伸びを見せた一年でした。大河ドラマ「龍馬伝」や一昨年の「らんまん」など、高知を舞台にした作品の人氣が、わが県への注目や来訪へと呼び水となるのは疑う余地がないでしょう。それらの期待を受け、大月町を含む県西部へと、十分な滞在時間をもった観光客を呼び込めたかとなると疑問が残ります。そのハードルになったのは宿泊場所の減少や、既存宿泊地での宿泊料などの高騰

が大きく、旅行者はコンパクトで移動距離の少ないもの、コストのからない観光を選んだ傾向が伺えます。直近の世界情勢でインバウンドの傾向に影響を受けてか、有名観光地での宿泊費などの低下が見られますが、それにより滞在時間や移動距離の延伸が期待できるといふ見方もできます。本年も県の観光方針は「極上の田舎体験」そして「ドラマが生まれる場所高知」。本町の観光の得意分野です。個人からの情報発信やサービスの質向上で、満足度の高い観光を作り上げる年にしましょう。

イルミネーション装い新たに



大月町の冬の風物詩となったイルミネーションが今年は「ー光が紡ぐ、冬物語ードリームスケープイルミネーション」と題し、地元高校生たちのアイデアを取り入れ、町イベント実行委員会とコラボレーションで開催されました。12月20日にはクリスマスイルミネーション点灯式も行われ、クリスマスマーケットの開催やクリスマスケーキの配布のほか、日本スカイランタン協会の協力でのスカイランタンの打ち上げが行われ、歓声があがりました。

ウィンダムファーム風のたよりと竜ヶ浜キャンプ場通信はお休みさせていただきます。風車開放日は現在調整準備中ですので決まり次第協会HPなどでお伝えいたします。

国外からの高知への注目が拡大

日中関係の情勢変化に端を発する中国人観光客の渡航制限問題でにわかに注目が集まるインバウンド問題ですが、高知県の観光も外国人観光客への依存度が高まりつつあります。訪日ラボの調べによると2024年の来高観光客の国籍は1位から順に台湾、韓国、香港、米国、タイ、中国と続きます。同サイトの調べで外国人観光客の訪れた観光地では10位以内に県西部が入っており、移動手段やPRなどでの問題解消ができていないことが伺えます。一方で外国人による観光のトレンドが徳島市や旭川市などの検索比が前年の数百%増と都市部や有名な観光地から地方に移っており、今までの単純な観光から、「つながり」や「意義のある体験」を求めるものに変化してきています。そんな中イギリスからの検索数が高知市で206%増加。名所や郷土料理といったありのままの風土を求める傾向に。このトレンドを追い風にしていきましょう。

青森のりんごと風車がコラボ



風車
×
りんごフェア

風車のメンテナンスなどではなくお休みしていた大洞山ウインドファームの一般公開が11月23日にひさしぶりに公開しました。この日は三連休の中日で風もあり、予想を大きく超える人数が訪れました。また、今回は『風車×りんごフェア』と題し、大月とも風車で縁のある青森と道の駅ふれあいパーク大月がコラボした『りんごフェア』で販売した美味しい青森のりんごの引換券がもらえるということもあり、絶好の風車デーとなりました。これからも大洞山ウインドパークでは楽しい企画を展開していきたいと考えています。

『高知県体験プログラム安全管理ガイドライン』をしっかりと守って、お客さんに安心して楽しんでいただけるよう努めましょう。



ダムカード&ポケモンが大人気

全国各地のダムに足を運んだ事を証明する、ダムの詳細なデータが書かれた**ダムカード**(国土交通省が発行)は全国のマニアやコレクターに大人気。当観光協会では現在春遠地区に来年竣工予定の『春遠第一ダム』のカードの配布を行っています。また、子どもから大人まで人気のゲーム由来のキャラクター『ポケモン』も全国の都道府県が「推しポケモン」を制定。高知県は『ヌオー』が「高知だいすきポケモン」として任命され、路面電車や食品パッケージなどに登場。県内各地の風景や名物とコラボしたマンホールのふた『ポケふた』が県内各地で目にする事ができるよう。大月町では柏島観光情報発信センターで目にする事ができます。キャンペーンのスタンプリーは道の駅で行っていますのでお客様にご案内の際にはご注意ください。



植物めぐり一年を締めくくる

昨秋と昨年末になりますが、自然豊かな大月に触れて楽しむ「おおつき植物めぐり」において、大堂海岸を舞台に幻の蝶を追う『アサギマダラ舞うホルトノキ林を歩く』(10月25日)と、小才角のCO.SAで『地域の木で燻す里山くんせい実験室』(12月20日開催)のふたつのイベントが無事開催され、一年を締めくくることができました。どちらのイベントも好天に恵まれ、普段はなかなか触れることのできない大月の財産を身近に楽しむことができ、満足度の高く意義深い内容となりました。

大月むかし探訪 番外編 「馬の名前がつく地名」

新年は午年。力強く駆けける午のように、飛躍・前身し、成長し成功する年と言われている。大月もかつては開拓や流通に馬が重用され、それにちなんだ地名もあちこちに残っている。大月で馬といわれれば、宿毛方面から大月に入る際の交通の難所である『馬路峠』であろう。度重なる路線の切り直して、見通しも通るようになり走りやすくなったこの峠道も、トラックやバスにとっては「替えのタイヤがないと通れない」といわれていた。この馬路峠から宿毛市までの区間にあるのが『馬路』地区。弘見地区には含まれなかったが、弘見地区のお祭りには神輿が参加していたという。その弘見地区の中には芳ノ沢内平への入り口や、龍ヶ迫や橋浦へと分岐する泊浦地区と接する『大駄馬』地区がある。大駄馬は見晴らしのいい地形で、駄馬とつく地名は多くの場所が山中にある平らな場所が多いとされる。姫ノ井地区にある『高段駄馬』や、頭集地区の希望の道(前回の記事で紹介)にある『遊々駄馬』もそうだった地形だろう。以前紹介した姫ノ井と清王を結ぶ交通の難所「かいらさん」という回廊の中にも『馬ヶ谷』という地名をみつけることができる。

